

「社会科学原理」(森下教官) 1998年2月16日 4時間目

次の5題の中から2題を選択し、解答せよ。

(1)「囚人のジレンマ」,「共有地の悲劇」のモデルは,現代社会のどのような側面を明らかにする上で有効と思われるか説明せよ。(「囚人のジレンマ」,「共有地の悲劇」のモデル自体の詳細な説明はしないこと)

(2)「東洋と西洋」という図式の中で,日本はどのような位置にあると考えられるか。

(3)「戦後日本女性は社会進出したのではなく,専業主婦化した」という説がある(落合恵美子「21世紀家族へ」)。20歳代で専業主婦となる女性の比率は,昭和20年代,30年代,40年代と増えているからである。ただし50年代以後は低下している。このことを念頭におきつつ,「日本における家族の近代化」というテーマで論じよ。

(4)次の文章を手がかりの一つとして,社会科学の成立根拠を説明せよ。

J.S.ミルによれば,多くの人間を集めても,それで別の種類の実体に変わるわけではないという。しかし「集める」以前にも人々が存在していたとか,何らかの実体を有していたと考えるのは間違っている。私たちが生まれた途端,世界は私たちに作用し始め,私たちを単なる生物的統一体から社会的統一体へと変える。人間は社会の中に生まれてくるものであって,出生直後からこの社会によって作り上げられるのである。(E.H.カー「歴史とは何か」岩波新書)

(5)次の文章を手がかりの一つとして,現代民主主義の問題点について論じよ。

均衡的民主主義のモデルは,現実の西欧諸国の民主主義の記述としてはかなり正確である。この民主主義は,人類の向上のためといった価値を含んでいない。民主主義の目的は,あるがままの人民の欲求を登録することであって,人民がそうあり得るかもしれないものに貢献することではない。民主主義は単に一つの市場メカニズムである。(C.B.マクファーソン「自由民主主義は生き残れるか」岩波新書)